

# サツマイモ

和田義弥



## やせた土でよく育つ

焼きイモ、ふかしイモ、スイートポテトなど、ほくほくした食感と甘みがおいしいサツマイモは、わが家の2歳と5歳になる子どものおやつに大人気です。

毎年たくさん作るので、収穫を迎える晩秋から冬にかけては、ほぼ毎日のように食べています。サツマイモはかんしょ（甘藷）とも言われますが、これは甘いイモという意味です。

中央アメリカを原産とするサツマイモが日本に伝わったのは江戸時代。中国から沖縄を経て鹿児島にわたり、全国に広まりました。温暖な気候を好むこともあり、今でも鹿児島は全国一の生産量を誇ります。

サツマイモはやせた土壌でも栽培できることから、江戸時代にたびたび発生した飢饉（ききん）や戦中戦後の食糧難には大変活躍しました。つるが広がるためある程度のスペースは必要ですが、とても簡単にできる作物です。秋のイモ掘りも楽しいイベントになりますよ。



収穫は霜が降りる前に行う。  
イモ掘りも楽しいイベント

### 育て方

サツマイモは、つるを苗にして育てます。長さ30㎝ほどで、4～5の節があるものがよいです。**(写真)**

畝は幅50～60㎝、高さ30㎝ほどの高畝とし、株間は約40㎝。地力の低い砂質の土壌を好むため、元肥は施しません。栄養の豊富な土壌では、つるばかり伸びて（つるぼけ）、いいイモがつかないのです。根を伸びやすくするために、土は柔らかく耕しておいてください。

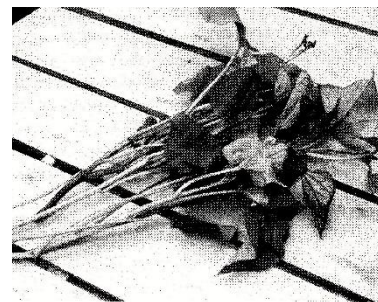
植え付けは5月中旬から下旬。苗は根元の4～5節が土に隠れるように斜めに植え付けます。葉は地上に出してください。

強い日差しが降り注ぐようになり、気温が上がると一気に成長します。つるが伸びすぎるとイモが肥大しないので、裏返して（つる返し）成長を抑えます。つるからは小さな根が伸びますが、根こそぎひっくり返してください。

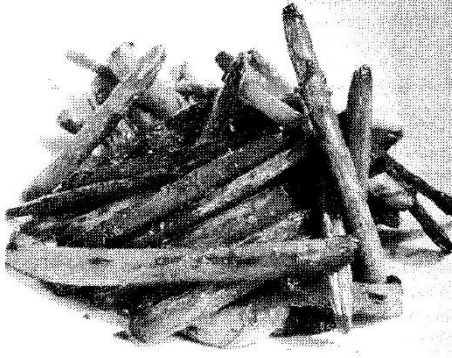
収穫は10月から11月。植え付けから110日前後が目安です。地上部のつるを切り取ってからイモを傷つけないように丁寧に掘り出します。収穫したイモは1～2週間日陰におき追熟させると甘みが出てきます。

### つるもおいしい

サツマイモのつるは通常、収穫のときに切って捨ててしまいましたが、実は食べることもできます。つるは正確には葉柄（ようへい）といい、葉柄の食用を目的とした品種もありますが、一般的なサツマイモでも食べられます。



皮をむいて酒、砂糖、しょうゆ、みりんで味つけした葉柄のきんぴら



切り取った葉柄は皮をむいて下ゆでしておくとう柔らかくなります。つくだ煮、酢のもの、きんぴら、炒め物など調理法も幅広く、しゃきしゃきした食感を楽しめます。

しんぶん 赤 旗 日曜版 2016年5月1日・8日合併号 第3種郵便物認可 (10)

くらし彩々